

平成 30 年度第 2 回高知県歯と口の健康づくり推進協議会 議事要旨

- 1 【日時】平成 31 年 3 月 18 日（月）19 時 00 分～20 時 30 分
- 2 【場所】高知県歯科医師会館 会議室 1
- 3 【出席者】協議会委員 13 名出席、欠席 6 名、事務局 10 名
- 4 協議事項
 - (1) 第 2 期高知県歯と口の健康づくり基本計画に基づく平成 30 年度の取組実績について
 - (2) 第 2 期高知県歯と口の健康づくり基本計画に基づく平成 31 年度の取組予定について
- 5 議事の経過の概要

会長の議事進行により、各議題について事務局の説明を受け、協議が行われた。

議題

- (1) 第 2 期高知県歯と口の健康づくり基本計画に基づく平成 30 年度の取組実績について
- ・委員から、高知市ではフッ化物洗口マニュアルを作成したが、小学校での洗口開始には困難な点もあり、地道に進めていきたいと意見があった。
 - ・委員から、フッ化物洗口を進めるには養護教諭の理解を得ることが重要であり、洗口によるむし歯予防効果を明確に示していく必要があると意見があった。
 - ・安芸福祉保健所の歯科保健担当者から、安芸管内では県立高校以外の施設でフッ化物洗口が実施されており、今後は精度管理が重要となってくること・養護教諭の交代が多いため、引き継ぎや人材育成を行っていく必要があること・来年度開設される東部在宅歯科医療連携室と連携しながら高齢者歯科を推進していきたいこと・乳幼児のむし歯対策について、市町村と連携しながら進めていきたいことの報告があった。
 - ・中央東福祉保健所の歯科保健担当者から、子どものむし歯に関しては子育てに協力している祖父母の意識が低く、意識向上のために祖父母向けリーフレットを作成予定であること・口腔機能向上のための口の体操が定着しづらいこと・今年度中に介護支援専門員を対象に訪問歯科診療についてのアンケート調査を実施する予定であることの報告があった。
 - ・中央西福祉保健所の歯科保健担当者から、口腔機能発達に問題がある子どもの増加及びそのような子ども達に対しては低年齢からの働きかけが必要であること・介護予防事業で口の体操が省かれるなど口腔機能向上に対する取組が後回しになっている状況があることの報告があった。
 - ・須崎福祉保健所の歯科保健担当者から、フッ化物洗口実施状況・小中学生の歯肉炎が増加していること・フッ化物洗口未実施校に対しては教育委員会や校長会を通じて教諭に理解を得て実施していくこと・働き盛り世代に健診受診を促す啓発チラシを作成していく予定であることの報告があった。

- ・ 幡多福祉保健所の歯科保健担当者から、管内 12 歳児のむし歯本数が県平均の 1.5 倍であり、フッ化物洗口に一層力を入れていきたいこと・高齢者施設等の職員に口腔ケアの実技研修を行い、今後も協力歯科医師による指導を継続していくこと・幡多地区在宅歯科医療連携室が開所され、相談件数が増えていることの報告があった。
- ・ 委員から、ケアマネージャーが高齢者の口腔内状況を把握しやすい聞き取りのための様式を歯科衛生士会で作成したいと意見があった。

(2) 第 2 期高知県歯と口の健康づくり基本計画に基づく平成 31 年度の取組予定について

- ・ 事務局からの説明に対し、特に質問や意見はなかった。

以上をもって、20 時 30 分に閉会した。